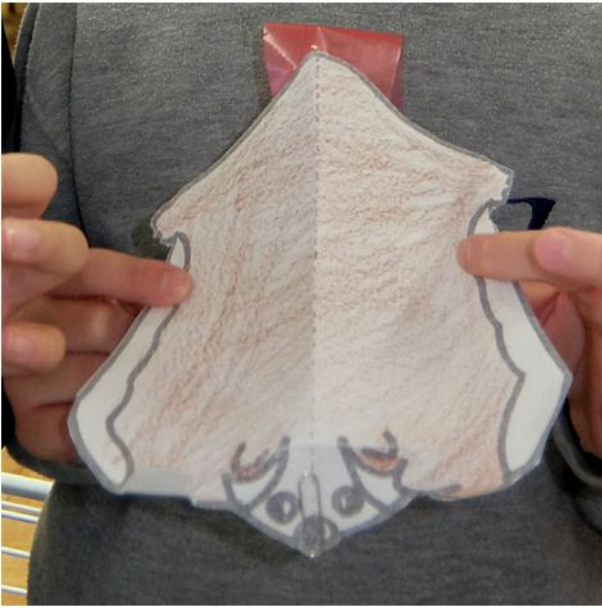


「ムササビを飛ばそう (6)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

「飛ぶムササビづくり」この活動の面白さは、非常に単純な型紙から、いかに工夫を加えて、よく滑空するムササビにするか、という点である。もともと1枚の平面だから、最初はクラス全員がうまく飛ばせない。



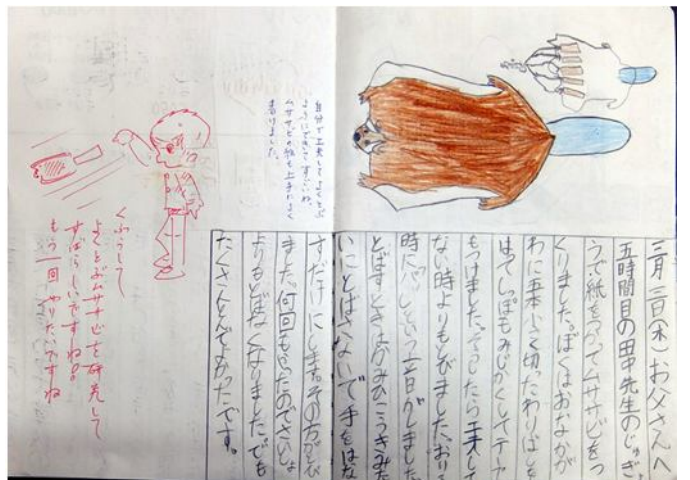
最初はこういう形のものを作る子どもが多い。しかし背中を山折りにすると、背中を下にして落ちてしまい、ほとんど滑空しない。面白くも何ともない。



持ち方・離し方にも工夫が必要だ。最初は、片手で持って、紙飛行機のように飛ばす子どもが多かったが、これはNG。こうして両手で持って、そっと放し、あとは重力だけに頼ると、うまく滑空する。



一番大切なのは、ムササビの形状だ。この子どもが作ったものが、圧倒的によく飛んだ。周囲の子どもたちから、ウワァーっと、歓声があがる。背中を山折りにしたあと、背中をへこませて、体を反らせてある。ちょうど、背筋運動をしているような格好だ。顔も、本物のムササビの滑空姿勢と同じように、少し下向きに降り曲げると、安定した姿勢で飛ぶようになる。これらの方法は、あっという間にクラス全体に広まって、次々とよく飛ぶムササビが登場した。



これは、活動の翌日に提出された、絵だより(絵日記)である。ムササビづくりの成功と失敗が書かれている。高尾山の遠足からつながった、とても楽しい活動だった。(2ページ目に型紙の画像あり)

9才画用紙半裁に印刷するのが適している。
または、A4ケント紙でも可。

